

# 1 令和7年度行政研修の新たな取組

公務員研修所（埼玉県入間市）では、国民全体の奉仕者としての使命感の向上、資質・能力の向上及び研修員間の相互理解・信頼関係の醸成を基本的な目的として、採用時から幹部級まで役職段階ごとに行政研修を実施しています。

令和4年度途中より、新型コロナウイルス感染症の感染状況に注意しながら、合宿研修を再開する一方で、各府省からのニーズや研修内容等も踏まえながらオンライン方式・通勤方式も引き続き実施するとともに、研修内容の改善・充実にも継続して取り組んできています。ここでは、令和7年度における新たな取組や改善点などを中心に御紹介します。

## (1)初任行政研修

### ～川崎キングスカイフロント・羽田空港、外交史料館、中小企業への現場訪問を実施

初任行政研修は、総合職試験採用者を対象に5月の連休明けから7月にかけて実施しているものですが、令和7年度においては、

- 1週目：事務次官級職員による講話、政官関係に関する有識者による講義等からなるオンライン研修（1日間）
- 2週目：西ヶ原研修合同庁舎（東京都北区）における通勤研修
- 3週目：地方自治体実地体験、被災地復興・地方創生プログラム
- 4週目：公務員研修所における合宿研修

を実施しました。

合宿研修及び地方自治体実地体験等をそれぞれ約1週間実施することにより、研修員間での相互理解、信頼関係の醸成に大きく寄与したほか、地方自治体における多様な関係者との意見交換等を通じた地方自治体の現場の理解に大きく資するものになったと考えます。

ここでは、研修内容に関する取組として、体験を通して行政の在り方を考えるカリキュラムの一つとして実施している「現場訪問」を紹介します。現場訪問は、我が国の行政施策に関わる現場を訪問し、視察や関係者との意見交換等を通じて、現場の視点から国の政策立案の在り方について理解を深め、現場を知ることの重要性を学ぶことを狙いとして実施するものです。コロナ前は、中小企業・NPO等への現場訪問のほか、地方自治体実地体験などの実地体験型のカリキュラムを実施していま

したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実地体験型のカリキュラムは、令和2年度以降、中止していました。その後、同感染症に係る状況を踏まえ、令和5年度から地方自治体実地体験等を皮切りに徐々に再開し、令和7年度は、川崎キングスカイフロント国際戦略特区、羽田空港に所在する行政機関、外交史料館、入間市内及び近郊の中小企業への現場訪問を実施しました。

研修員は、現場訪問や関係者との意見交換等を通じて、現場の抱える課題や問題点、国の政策が現場に与える影響の大きさについて理解するとともに、今後、行政官として職務を遂行する上で現場を知ることの重要性について認識を深めました。

#### ◆研修員の感想

- \* 市としては異例の規模で研究開発を支援している川崎キングスカイフロントは今後政策立案において、非常に参考となった。特に、産学官連携において研究開発から社会実装へのつながりが弱いという問題意識は同じであり、そこに対して積極的に解決していく姿勢は今後も参考にしたい。
- \* 羽田空港において、国交省だけでなく、検疫の厚労

省や農水省、入管の法務省など様々な官庁が協働している様子を目にした。今後の政策を考える際の参考にしたい。

- \* 普段、あまり目にする事のない外交資料を通して、先人の努力と歴史の重みを感じるとともに、これからの職業人生を通して、後世の歴史の検証に耐えるものを創っていかなくてはならない重い責任も感じた。

\* 製造現場の方々は日本の技術やものづくりの価値を  
すごく信じていて、その強みを失わないように変化・  
進化していくことを大事にしていることが感じ取れ  
た。国家公務員として行政は法律や制度を所管してい  
て、世の中の変化に気付かず、対応できないと産業を

主導する立場にありながら産業全体の歩みを妨げてし  
まう可能性もあり、次の変化に対応できるように民間  
企業以上にアンテナを伸ばしておくことが国家公務員  
に求められていると思った。

---

## (2)初任行政フォローアップ研修 ～五感を活性化する現場訪問・対話等のカリキュラムを実施

---

初任行政フォローアップ研修は、初任行政研修の受講から2年を経過した職員を対象として実施しており、令和7年度は、6コース、4日間の公務員研修所における合宿形式で実施しました。

具体的には、公務員研修所が所在する埼玉県入間市内の小中学校や企業への現場訪問、入間市長等との意見交換を行うコースのほか、次代の課題解決に向けて企業やNPOで活躍するリーダーとの対話を通じて、行政との協働や、行政官として連動しうる可能性をイメージし、新しい公共の在り方を考えるカリキュラムを新たに導入したコースなど、コースごとの特色付けを行いながら実施しました。

研修員は、こうした現場訪問や、意見交換・対話を通じて、政官民との連携の意義を実感し、研修員の五感の活性化に資するものとなりました。

### ◆研修員の感想

\* 小学校にお伺いした。小学生だった頃の私が考えていたこと・夢中になっていたことと、今の小学生のそれが全く違うことに衝撃を受けた。真に意味のある政策立案を行うには、現場を正しく理解する必要があるが、それを達成するためには、このような実地でのヒアリングを実施するしかないのだと痛感した。

\* 地域の企業及び住民の方々と密接に協力をする事で、国からの支援では足りない部分を補っているという地方自治の厳しい現状を、市長からの生の声でお伺いすることができ、とても身が引き締められました。そ

れぞれの地方自治に頼るのではなく、国として足りないことを見直すべきだと思いました。

\* 官民連携の在り方について考えるきっかけとなっただけでなく、行政官として持つべきマインドや民間への寄り添い方等、幅広くパネルディスカッションを聞くことができとても有益だった。行政官として身につく能力や先のキャリアパスに不安を抱くこともある3年目に、行政官のデザインできる魅力やキャリアが進むとそれが見えてくること等、先のことも聞くことができて良かった。

---

## (3)課長補佐級(リーダーシップ研修) ～北海道上士幌町において合宿研修を実施

---

行政研修(課長補佐級)リーダーシップ研修は、本府省課長補佐級の職員で、将来、本府省幹部職員として行政運営の中核を担うことが期待される職員を対象に実施しているもので、令和7年度は令和7年8月から令和8年1月までの間に通算14日間の研修を、学术界の若手研究者「アカデミックパートナー」4名とともに、合宿と通勤の組合せにより実施しました。

このうち合宿研修について、令和4～6年度は隠岐諸島にある島根県海士町を訪問して実施してきましたが、令和7年度は、10月上旬の3日間、北海道上士幌町にて実施しました。研修員は、竹中貢上士幌町長から同町が目指すまちづくりのビジョンを聞いた後、シェアオフィス、バイオガスプラント、ドローン宅配などの先進的な施設や事業を視察したり、農家や中学校を訪問したりしながら、関係者との交流・意見交換を行いました。こうしたことを通じて、地方創生

の取組への理解を深めつつ、非日常の環境の中で自らを

見つめることができたのではないかと考えます。

### ◆研修員の感想

- \* 行政関係者、農家、起業家、中学生など、日常業務では接点の少ない多様な立場の者と、異なるテーマについて議論する機会を得ることができ、有意義であった。立場や世代の違いにより、各々が抱える課題や価値観に触れることができ、新たな視点や気づきを得ることができた。
- \* 上士幌町のような都市部から少し外れた市町村に伺い、その実態を見る機会はめったになく、自分の今

後の人生を考える際に参考になりました。

- \* 町の人々との交流や、ワークにおけるメンバーとの対話や自己内省の時間を通じて、自分自身が今後取り組んでいきたいことの方向性や解決していきたい問題が具体化されたように感じた。
- \* 色々な方との対話、他の研修員の皆さんとの何気ない会話を通して、自分の研究を客観的に見つめ直すことができたように思います。

## (4)課長級(課長力向上コース) ～ 1コース増加して年3回実施

マネジメント能力の涵養を図るため、令和4年度から行政研修(課長級)課長力向上コースを実施していますが、令和7年度は、通勤2日間のコースを1コース増やして2コース、通勤4日間のコースを1コース実施しました。いずれのコースにおいても、それぞれ第一部と第二部とに分けて、研修期間中に、1か月程度の職場でのマネジメント課題の実践期間を挟んでおり、研修で学んだことを職場で実践し、その実践内容を研修の場で振り返ることができるカリキュラムとしています。

### ◆研修員の感想

- \* 規模や業務内容の異なる様々な組織に所属する方々の課題や取組を伺うことができ、大変参考になりました。明日から早速やってみたいと思うこともあったので、今回の研修で受けた感銘を忘れずに取り組んでいきたいと思っています。
- \* リーダーシップとマネジメントの違い、コミュニケーションの重要性、漢字の成り立ちなど、多岐にわたる知識を得ることができて勉強になった。目標を立

て1か月を経て成果を発表するというスタイルも、研修の内容を意識して業務をすることができたという意味で有意義だった。

- \* 第一部で得られた気づきを実践し、その成果やあい路を他の参加者にフィードバックして、同じ悩みを持っていることを改めて共有することができました。言語化できていなかったもやもやが一つ一つクリアになっていくイメージです。また、1年後くらいに会いしてみたいと思いました。

## (5)行政フォーラム ～ 5年ぶりに対面でも実施

行政フォーラムは、本府省の課長級以上の職員を対象として、各界の有識者をお招きして1.5時間の講義と意見交換を行うもので、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点とともに、広く全国の勤務官署に勤務する幹部職員が研修に参加できるよう、令和2年度途中よりオンラインにより実施していました。令和7年度においては、東京大学大学院工学系研究科の鳥海不二夫教授をお招きして、「デジタル空間とどう向き合うか～情報的健康の実現のために～」をテーマとして実施した回を含めて5回をオンラインで実施したほか、東日本大震災・原子力発電所事故の発生から15年を控えた令和8年2月には、内堀雅雄福島県知事をお招きして「『FUKUSIMA』の未来」をテーマとして5年ぶりに対面で実施しました。内堀知事からは、光・影・挑戦という3つのキーワードをベースに、福島の挑戦や課題、福島の

---

未来について講義いただきました。その後の質疑応答時においても、内堀知事は、質問の都度、質問者のもとまで足を運ばれ、一つ一つ丁寧に回答いただき、対面実施による今回のフォーラムを通じて、参加者にも、福島復

興に対する内堀知事の思いを直接に感じていただくとともに、政府職員及び一国民として福島復興に取り組むことの重要性を改めて深く認識する機会となりました。

◆研修員の感想（内堀知事の回より）

- \* 今日を契機に、自分も福島の応援大使になったつもりで、家族や知人・友人に今日の話を伝えて、微力ながら福島の現状が「伝わる」PRに努めて参ります。
- \* 絶望的な状況でも、粘り強く挑戦を続けることの重要さを、知事が丁寧に語っていただきました。また、知事の落ち着いた語り口、積極的に対話しようという

姿勢に、大変感銘を受けました。

- \* 内堀知事の情熱のこもった魅力的なプレゼンテーションを拝聴することで、福島県の現在と将来に関する理解が深まったことはもとより、福島県の展望に明るさを感じ、今後、何らかの形で関与してみたいという意欲が湧いてきた機会となりました。